

平成 30 年度

北秋田市行政評価委員会
評価結果報告書

平成 30 年 12 月

北秋田市行政評価委員会

目次

1. 行政評価委員会の概要	1
(1) 設置目的	1
(2) 委員会の役割	1
(3) 委員会の構成	2
(4) 評価の進め方	2
(5) 評価対象事業	3
(6) 委員会の開催経過	4
2. 評価結果の総括	5
(1) 目的妥当性（行政が関与すべきか？公共性はあるか？）	5
(2) 有効性評価（成果向上の余地は？他の事業との連携は？）	5
(3) 効率性評価（コストの削減？業務改善による人員や時間の削減は？）	5
(4) 公平性評価（一部の受益者を対象にしているか？ 偏っていないか？）	5
3. 事業別の評価結果	6
(1) 北秋田市結婚支援事業	6
(2) ホームページ情報発信事業	7
(3) 北秋田市観光物産協会補助金事業	8
(4) 情報伝達体制（防災無線、災害メール）事業	9
(5) 伊勢堂岱遺跡管理事業（伊勢堂岱縄文館）	10
(6) 児童館活動事業	11
4. 市民による評価の課題及び改善に向けての提言	12
(1) 事務事業マネジメントシートの記載内容について	12
(2) ヒアリング時の職員の対応について	12
(3) 行政評価委員会での評価の進め方について	13
(4) その他、行政評価委員会の運営で改善すべき点や気づいた点について	13
(5) 今回の評価対象事業にかかわらず、今後のまちづくりに関わる改善策や提言について	14
資料 1 事務事業評価ワークシート	15
(1) 北秋田市結婚支援事業	15
(2) ホームページ情報発信事業	17
(3) 北秋田市観光物産協会補助金事業	19
(4) 情報伝達体制（防災無線、災害メール）事業	21
(5) 伊勢堂岱遺跡管理事業（伊勢堂岱縄文館）	23
(6) 児童館活動事業	25
資料 2 行政評価委員会からの意見や提言に対する回答（平成 29 年度）	27
(1) 代替タクシー運行事業	27
(2) 秋田内陸線利用高校生定期券補助金	28
(3) 市民提案型まちづくり補助事業	29
(4) げんきワールドの管理運営事業	30
(5) 市民バス管理事業	31
(6) 浜辺の歌音楽館管理運営事業	32
(7) 放課後児童健全育成事業	33
(8) 都市公園等維持管理事業	34

1. 行政評価委員会の概要

(1) 設置目的

北秋田市行政評価委員会（以下「委員会」という。）は、市が行った内部評価の客観性と透明性を高めるとともに、市民目線による外部の評価結果を今後の行政運営に活かすことを目的として設置しております。

(2) 委員会の役割

委員会では、市が行った事業について、各委員それぞれの立場や視点で議論しながら評価を行い、問題等がある場合は、改善案についても提言します。

評価にあたっては、次の4つの視点から評価しますが、いわゆる「事業仕分け」のように、事業の廃止や予算縮減など財源の捻出を主な目的とした手法ではなく「受益者」「納税者（負担者）」「利害関係者」「住民」などまちづくりの担い手がいることに留意しながら、行政、市民、各団体などそれぞれのどのような役割を担うべきかなど、建設的な意見や提言を取りまとめることを目標に取り組んでおります。

評価の視点	評価のポイント
目的妥当性	<ul style="list-style-type: none">・ 目的は、総合計画の政策体系に結びついているか？・ 成果（対象と意図）と上位成果（結果）の絞り込み、拡充は必要か？・ 行政や市が関与すべき目的か？公共性はあるのか？
有効性	<ul style="list-style-type: none">・ 成果の向上余地があるか？・ 同じ目的を持つ他の事務事業はないか？・ 統廃合や事業移管をすれば成果が向上するのではないか？
効率性	<ul style="list-style-type: none">・ 成果を低下させずにコストを削減できるか？・ どこにコスト圧迫、増大する要因があるか？・ 業務改善すれば人員や時間を削減できるのではないか？
公平性	<ul style="list-style-type: none">・ 一部の受益者に偏っていないか？・ 一部の受益者に機会が限定されていないか？

(3) 委員会の構成

委員会は、学識経験者、地域自治組織から推薦された方、公募市民からなる 10 名以内の委員で構成しています。

委員の任期は、平成 30 年 8 月 29 日から平成 32 年 3 月 31 日までとなっています。

	役職	氏名	部会
1	委員	石田 一男	第 2 部会
2	副委員長	伊藤 武	第 2 部会
3	委員	春日 俊克	第 1 部会
4	委員長	小塚 光子	第 1 部会
5	委員	金 福雄	第 1 部会
6	委員	佐藤 善壽	第 1 部会
7	委員	佐藤 信子	第 2 部会
8	委員	佐藤 冬和	第 2 部会
9	委員	長谷川拓郎	第 1 部会
10	委員	村上 京子	第 2 部会

(五十音順)

(4) 評価の進め方

各事業の評価については、毎回 2 つの部会に評価対象事業を割り振りし、部会毎に議論して意見を取りまとめ、その結果を部会終了後の全体会で発表及び意見交換し、評価結果としてとりまとめました。

【 部会 】

① 担当課ヒアリング及び質疑応答 (60 分)

- ・担当部長、課長等により、事務事業評価シートをもとに事業の概要や実績、内部評価結果などを説明する。
- ・不明な点、疑問点を委員から質問し、担当課が回答する。

② 評価結果の取りまとめ (60 分)

- ・目的妥当性や有効性など 4 つの評価視点からそれぞれの意見を出し合う。
- ・評価結果の他、改善案などについても、意見を取りまとめる。



【全体会】

③ 評価結果発表・意見交換 (30分)

- ・部会毎に評価結果を発表する。
- ・疑問点の有無、その他の意見や改善案などないか確認する。

④ 評価結果取りまとめ



(5) 評価対象事業

評価対象とする事務事業については、平成24年度から平成30年度までに担当課等による内部評価を終えた108事務事業のうち、これまでに外部評価を実施した事務事業も含め、委員の関心がある次の6つの事務事業を評価対象として選定しました。

事務事業名	分野（施策名）	所管課名
北秋田市結婚支援事業	安心して結婚・出産・子育てできる環境の充実	総合政策課
ホームページ情報発信事業	行財政改革の推進	総合政策課
北秋田市観光物産協会補助金事業	観光・レクリエーションの振興	商工観光課
情報伝達体制（防災無線、災害メール）事業	地域防災体制の充実	総務課
伊勢堂岱遺跡管理事業（伊勢堂岱縄文館）	芸術・文化の継承と振興	生涯学習課
児童館活動事業	安心して結婚・出産・子育てできる環境の充実	福祉課

(6) 委員会の開催経過

	日時	委員会の概要
第1回	8月29日	<ul style="list-style-type: none">・委嘱状交付・事務事業評価の手法・考え方について説明・今年度の行政評価委員会の進め方について・前年度外部評価での意見提言に対する回答
第2回	9月20日	<ul style="list-style-type: none">・担当課ヒアリング（部会） 【第1部会】北秋田市結婚支援事業 【第2部会】ホームページ情報発信事業
第3回	10月24日	<ul style="list-style-type: none">・担当課ヒアリング（部会） 【第1部会】北秋田市観光物産協会補助金事業 【第2部会】情報伝達体制事業
第4回	11月8日	<ul style="list-style-type: none">・担当課ヒアリング（部会） 【第1部会】伊勢堂岱遺跡管理事業 【第2部会】児童館活動事業
第5回	11月28日	<ul style="list-style-type: none">・評価結果取りまとめ（部会）・評価結果報告、意見交換（全体会）・評価結果報告書取りまとめ（全体会）
—	12月18日	<ul style="list-style-type: none">・市長へ評価結果報告書の提出、意見交換

2. 評価結果の総括

【評価項目別の評価結果一覧】

評価の視点	担当課(内部評価)		行政評価委員会(外部評価)	
	適切	見直し余地あり	適切	見直し余地あり
目的妥当性	5事業	1事業	5事業	1事業
有効性	3事業	3事業	2事業	4事業
効率性	3事業	3事業	4事業	2事業
公平性	3事業	3事業	4事業	2事業

(1) 目的妥当性 (行政が関与すべきか？公共性はあるか？)

担当課による評価結果と大きな違いはありませんでした。

(2) 有効性評価 (成果向上の余地は？他の事業との連携は？)

担当課による評価とは異なり、伊勢堂岱遺跡管理事業における成果の向上余地と連携の可能性について、共に「見直し余地がある」との評価としております。

(3) 効率性評価 (コストの削減？業務改善による人員や時間の削減は？)

担当課による評価結果とは異なり、伊勢堂岱遺跡管理事業における人件費の削減余地の評価について「適切である」との評価としております。

(4) 公平性評価 (一部の受益者を対象にしていないか？ 偏っていないか？)

担当課による評価結果とは異なり、伊勢堂岱遺跡管理事業における公平性の評価について、「適切である」との評価としております。

3. 事業別の評価結果

(1) 北秋田市結婚支援事業

評価の視点	市（担当課）の評価	行政評価委員会の評価
目的妥当性	適切	適切
有効性	見直しの余地あり	見直しの余地あり
効率性	見直しの余地あり	見直しの余地あり
公平性	適切	適切

【行政評価委員会からの提言】

① 今後の事業の方向性

- 事業のやり方改善（有効性改善）
- 事業のやり方改善（効率性改善）

② 全体所感・市への提案

- 婚活イベントへの投資と成果を分析するためにも、参加者および参加しない人へのアンケートを実施すること。
- 昔よくいたご近所のおせっかいおばちゃんが結婚相手を紹介してくれるような「おせっかいおばちゃん課」のようなものをつくり、各地域へ結婚サポーターを増やすこと。
- 事業開始からまだ2年目なので、今後の様子を見る必要がある。
- 若い人の心理を如何につかむかが大事である。結婚したい方に親身になって寄り添うような支援の充実を検討すること。「かゆいところ」に手を差し伸べるように一段掘り下げた進め方をしないと成果向上へはつながらない。
- 「結婚支援」という単語を前面に出さない配慮や、独身者自身がイベントの企画をする形を検討すること。

(2) ホームページ情報発信事業

評価の視点	市（担当課）の評価	行政評価委員会の評価
目的妥当性	適切	適切
有効性	見直しの余地あり	見直しの余地あり
効率性	適切	適切
公平性	適切	適切

【行政評価委員会からの提言】

① 今後の事業の方向性

■ 事業のやり方改善（有効性改善）

② 全体所感・市への提案

- ホームページには各課による情報発信であるが、ガイドラインを作るなど、掲載内容のチェック機能を確認すること。
- リニューアル時には、インパクトのあるトップページとし、（特に観光施設は）多言語・画像も用いて一覧しやすいホームページにすること。
- マスコミの情報も活用するなど関連サイトとのリンクを充実させること。
- 費用をかけても、観光や日常生活に役立つ情報発信を盛り込んだ、興味を引くホームページにすること。
- いろんな手段で情報発信をし、全ての世代に情報が届くようにすること。
- 市民が使いやすいことを最優先して進めること。

(3) 北秋田市観光物産協会補助金事業

評価の視点	市（担当課）の評価	行政評価委員会の評価
目的妥当性	見直しの余地あり	見直しの余地あり
有効性	見直しの余地あり	見直しの余地あり
効率性	見直しの余地あり	見直しの余地あり
公平性	見直しの余地あり	見直しの余地あり

【行政評価委員会からの提言】

① 今後の事業の方向性

- 目標再設定
- 事業のやり方改善（有効性改善）
- 事業のやり方改善（効率性改善）
- 事業のやり方改善（公平性改善）

② 全体所感・市への提案

- 事業内容が鷹巣地区のイベント中心であり地区に偏りがある。
- 四季美館に観光案内所がない状況であり情報発信が不足しているので、観光案内所を充実させること。
- 北秋田市の観光発信をしていくための人材確保や予算措置を検討すること。
- 具体的な観光対策の議論をするためにも、入れ込み数などのデータの信頼性を高めること。
- 広域連携を強化するなど、観光案内を通じた観光客の増加のためには事業内容の抜本的な見直しが必要である。
- 各地域に観光案内所を増やすこと。
- 市全体の観光案内の質の向上のために、より人手が必要である。まとめていく人材とそれをバックアップする体制を検討すること。
- 今年度に体制が変わったので、今年度の活動に期待して来年度に再評価することも検討すること。
- 各地区にある観光資源（特徴）をしっかりと掘り下げて広域的にPRすること。
- 各地区のコース別の観光ルートを作成して観光客に示すこと。
- 協会は市全体の観光推進を担っていくためにも、各地区のイベントは全て実行委員会方式とし、それぞれに地域に落とし込むこと。

(4) 情報伝達体制（防災無線、災害メール）事業

評価の視点	市（担当課）の評価	行政評価委員会の評価
目的妥当性	適切	適切
有効性	適切	適切
効率性	適切	適切
公平性	適切	適切

【行政評価委員会からの提言】

① 今後の事業の方向性

- 現状維持（従来どおりで特に改善を要しない）

② 全体所感・市への提案

- 防災メールの登録率がいまだに低いので、高めていくための広報等を行うこと。
- 情報伝達にとどまらず、住民による自主防災組織の拡充が求められるので、その啓発を行うこと。
- 防災ラジオや防災メールの導入を行っていない層に対する周知徹底をすること。
- 防災ラジオについては10年後の機械の更新等を検討しておくこと。
- 防災ラジオの配布方法については自治会等と連携を図りながらスムーズに進めること。
- 防災ラジオの単価についてあまり知られていないので理解を広めること。
- ラジオの不感地域への対策を行うこと。

(5) 伊勢堂岱遺跡管理事業（伊勢堂岱縄文館）

評価の視点	市（担当課）の評価	行政評価委員会の評価
目的妥当性	適切	適切
有効性	適切	見直しの余地あり
効率性	見直しの余地あり	適切
公平性	見直しの余地あり	適切

【行政評価委員会からの提言】

① 今後の事業の方向性

■事業のやり方改善（効率性改善）

② 全体所感・市への提案

- 年代に合った効果的な周知方法を行い、遺跡を市民にもっと周知すること。
- 市内の観光施設と連携し、誘客を図ること。
- 他の縄文遺跡群加盟自治体との連携強化すること。
- 世界遺産登録という目標が果たされていないので、予算をもっと計上して目標に向かうこと。
- 緊急時対応マニュアルを整備するなど、施設利用者の安全と危機管理には十分注意すること。
- 地域の人々の目に付くように、広くポスターやチラシなどでPRすること。
- 遺跡敷地にある橋脚の見栄えが悪いので、緑化などの対応を行うこと。
- 体験型を含む冬季間のイベントを企画すること。
- 世界遺産登録に向けて更なる準備と機運を盛り上げること。
- ボランティアの活動継続や新規加入促進のためにも、無償ではなく有償ボランティアについて検討すること。

(6) 児童館活動事業

評価の視点	市（担当課）の評価	行政評価委員会の評価
目的妥当性	適切	適切
有効性	適切	適切
効率性	適切	適切
公平性	見直しの余地あり	見直しの余地あり

【行政評価委員会からの提言】

① 今後の事業の方向性

■市の関与軽減

② 全体所感・市への提案

- 西児童館の方向性を検討すること。（今後統合予定の鷹巣・綴子・鷹巣東も見据えて）
- 縦割りの現状から、無駄が多く非効率であることから、児童館（福祉課）と児童クラブ（生涯学習課）の事業の統合について検討すること。
- 事業の統合によって、子供たちの行き先がなくならないようにすること。
- 横断的な組織連携（教育委員会）や自治会等との連携を図ること。
- 児童館の改築や統合の検討の際は、地域住民を含めた検討委員会などによる議論を行うこと。
- 子どもを守る意識を高めるためのガイドラインを作成すること。

4. 市民による評価の課題及び改善に向けての提言

(1) 事務事業マネジメントシートの記載内容について

- ◇ 理解しやすい記載である。
- ◇ 初めての参加でしたので内容的には満足している。
- ◇ 分かりやすく記載されている。
- ◇ シートで初めて説明を受ける為、聞きただす質問に自分で苦勞したことも有った。
- ◇ シート枠の活用で両面となれば若干のスペースがあることからスペース全部を活かし、各項目間に可能な限り空白があれば利用し易い。
- ◇ 最近、「カタカナ文字」に注釈付きとなり、理解し易い。枠外でなく、括弧書きも可能になると思うので、要検討。
- ◇ 市民目線で受け止めた場合、表現の方法でもう少し工夫が欲しい。
- ◇ 事業によっては、高齢者にとって対応が難しい面もあるので、その対策を考えて欲しい。
- ◇ 民間事業者、他部署との関連、どういう連携をしているのかを具体的に記載してあればよい。
- ◇ マネジメントシートの記載内容を変えず、レイアウトを変更してA4版化できないか。
- ◇ DMOなど一般市民が余りなじみのない言葉を使う場合は、常識といわず丁寧な説明を付け加えておくべき。
- ◇ 事業費、人件費の細部の説明には、口頭説明だけでなく資料が配られたほうが分かりやすく誤解されない。
- ◇ 民間や他の部署の活動状況も資料を添付してもらったほうが理解しやすいし、余計な議論にならないと思う。
- ◇ 分かりやすく説明していただいているが、日頃接する機会がない事業だと、評価できる程度まで理解するのは難しいものだと感じている。
- ◇ 対象事業によっては、一般的にはどうなのか、他の自治体ではどうやっているのかなど、比較対象をあげてもらえると判断しやすくなる。

(2) ヒアリング時の職員の対応について

- ◇ 現場を通しての事業であり、説明も深く分かり易く、対応もとても丁寧であったので、議論も事業の理解も深めることができた。
- ◇ 説明やQ & Aについても対応はしっかりしている。
- ◇ 課内での評価も良く判断していると思われた。
- ◇ 説明者は概ね良かったと思うが、単位事務担当的な配置が気掛りになり、「キャリア」と「仕事の効率」面からの検討を踏まえた、担当課にふさわしい年代者の配置も欲しいと感じた。
- ◇ 説明員の説明・対応は良かった。
- ◇ 事務事業について判らないところもあったが、担当者の説明を受けて理解できた。
- ◇ 説明は十分に納得できるものであった。
- ◇ 説明者の対応はとても良いと思う。
- ◇ 忙しい中、事前準備等もあり大変かと思うが、解り易い説明であった。
- ◇ 説明や対応は適切である。ただ、初対面の人が多いので、大きな声でゆっくりはっきりと所属職名氏名を知らせて欲しい。
- ◇ 説明や対応について、的確に私達と議論できた。
- ◇ シートの記載だけだと限界があり、やはり説明は大切であるので、根気強く対応してもらいたい。

- ◇ 大変明快・簡潔であった。

(3) 行政評価委員会での評価の進め方について

- ◇ 個々の思いや事業に対する関心によって、内容が深まる場合もあり、そのこと自体は、互いに学べてとてもいい時間であり、市の事業に関心が高まった。
- ◇ 時間の配分は良かったと思うが、進めながら目的の到達点に向かう難しさを毎回感じる。この進め方は、今後多方面にも活用できるものと思われる。
- ◇ 十分であったと思われる。
- ◇ 滞りなく進行できたと思う。
- ◇ 本庁舎以外での会議も行なわれ良かったと思う。
- ◇ 事務方で話し合いの内容を黒板に記入してくれたことは、非常に良かった。
- ◇ 各課担当職員の方たちは、委員の意見を丁寧に拾ってメモしてくれて大変頑張っているし、事前の資料作成や報告書の作成に相当の苦労があると思う。
- ◇ 担当職員が評価委員の意見を黒板にメモしてくださるようになったので、最後のまとめが以前より容易になった。
- ◇ 時間配分、検討事業に対する理解のため、先ず各人の意見交換がないと、次のステップへの移行がスムーズに進行しないことから、配分検討が必要。結果として取りまとめの時間不足となりがちとなる。
- ◇ テーマによっては討議時間がもう少し欲しい時もあるので、時間の設定が必要だと思われる。
- ◇ 時間の制約もあると思われるが、論議が消化不良の懸念もあった。
- ◇ 時間配分は十分議論を交わすには足りない。評価項目を時間制限のある中でまとめていくのは大変なことであるが、幸いベテラン先輩委員とてきぱきと動いてくれる新任委員がグループ内にいてくれて大変助かっている。
- ◇ 会議時間は十分落ち着いて議論すべきと考える、評価内容によっては、フレキシブルに開催時刻を午後1時とし、終了を4時30分としたらどうか。
- ◇ 事業に対する説明時間と取りまとめの時間配分に余裕がなく、取りまとめの時間が少なく、発表する人の気持ちを強く出さなければならなくなり、全員での協議の時間が少なかったと思う。
- ◇ 話し合いの途中で議論が横にそれて時間がとられたり、話し合いの中で重要な発言があったにもかかわらず記録から漏れてしまうことがあったように思われる。議論をうまくまとめながら進行していくのがいいと思うが、なかなか難しい。

(4) その他、行政評価委員会の運営で改善すべき点や気づいた点について

- ◇ 今回は3回の委員会であったが、回数を増やしてもらいたい。
- ◇ 各グループに意見集約執筆者を配置したことに依るスムーズな記入、効率的執行が出来て良かったと思う。
- ◇ 未評価事業に対する取組について、検討して欲しい。
- ◇ 広報だけでなく臨時的でも結果等を市民に広く知らして欲しい。
- ◇ 行政評価委員の構成年齢層を幅広くし、男女均等に選考して、意見を聞くことができればよい。
- ◇ 委員の方たちは素人であり初めてのことを理解して会議に臨まなければならないので、事前勉強のために、評価対象のマネージメントシートをもう少し早く届けて欲しい。
- ◇ 第1部会と第2部会が同室で開催されているため、議論が伯仲して、話が聞こえない場合があるので、改善して欲しい。
- ◇ 評価の欄に「どちらともいえない」を付け加えた方がよい。

- ◇ 向かい合わせの机にもうひとつ机を入れて、作業がやりやすい広さを確保して欲しい。
- ◇ 委員の構成は、いろいろの立場や経験者で組まれており大変よい。
- ◇ 評価委員全体で事業全般について話し合う機会が必要ではないか。その中から評価する事業を決める事が必要と考えている。

(5) 今回の評価対象事業にかかわらず、今後のまちづくりに関わる改善策や提言について

- ◇ 超少子高齢地域の北秋田市こそ、人口減と地域存続を見据えた本腰を入れた施策、対策が必要と危機感を感じている。
- ◇ 子どもが「健やかに心も体も健康」に育つことや精神的に余裕のある子育てを願っているが、子どもの病気、家族の介護等で職場が休めない、休みづらい、結果職場を辞めざるを得ない、転職をせざるを得ないなどの状況があるので、女性たちの働く場所、企業等への産み育てやすい職場環境づくりへの施策や働きかけが重要になる。
- ◇ 除雪対策について、市道沿いの空家など解体し、跡地利用として一時雪ストックヤードとして借りて対応してはいかがかと思う。
- ◇ 屋外作業（現場担当課）を担う課には、現場に疎い職員が見受けられる。現場は随時変化する事が多いことから見廻りが欠かせない。問題提起をしても現状把握等に時間がかかり、結果として時間・経費が掛り増しとなることから、機構的改善を望む。
- ◇ 現場を担当する課は、現場を軸に行動し、事案の先取りに心がけ、現場と事務が一体的となつて事案対応に当たって欲しい。
- ◇ 施設の活用に、地域住民も参加しやすい環境づくりを望む。
- ◇ 高速交通体系が進む現在、企業誘致等を積極的に取り組み、若い方々が住めるような施策を進めて欲しい。
- ◇ 市役所職員には、地域の祭りや行事に参加して欲しい。
- ◇ 市民が行政に何を求めているか、重点施策等の市民アンケートなど実施してもらいたい。
- ◇ 至急、北秋田市全体を俯瞰でき、地区格差のない観光行政ができる職員の研修と養成をしないとイケないと思う。やらない理屈を探すより、どうすれば市民の切なる思いを実現できるのかを、真剣に考えることが大切ではないか。
- ◇ 建設課の市道関係の要望に対する対応は適切であり、県への要望も確実に届けてくれており感謝している。また、窓口センターの要望事項の進捗管理も適切であり、関係各課への連絡も迅速で住民ファーストの姿勢がよく分かる。
- ◇ 市民の声を拾い上げ、市民目線で行政運営をしていただきたい。
- ◇ キティちゃんの活用法に疑問がある。収益があがるような活用方法を検討されてはいかがか。
- ◇ 各課の様々な事業を縦割りで行うのではなく、各課で連携しながら臨機応変に取り組む必要があるように感じる。時には民間も引き入れて官民連携しながら進めていくべき。官民ともに切磋琢磨しながら同じ北秋田市市民としての実績や経験、成熟度を上げていく仕組みを、もっともっと積極的に考えていくべきだと思う。共に成長することで自ずと北秋田市の様々なことが良くなっていくように感じる。
- ◇ 行政を育てるのは市民であり、市民を育てるのは行政である。お互いに成長できるような素敵な北秋田市にしていきたい。

資料1 事務事業評価ワークシート

(1) 北秋田市結婚支援事業

事務事業評価 ワークシート1 【目的妥当性評価】

班名:第1部会

対象事務事業名:北秋田市結婚支援事業

I. 目的妥当性評価

対象
(誰が、何が)
市内在住の独身男女

意図
(どうなることで)
誰もが気軽に参加できるイベントとする。

結果...

上位目的
(どうなる)
婚姻数の増加

①対象・意図・上位目的の妥当性

この事務事業の目的(対象と意図)について、上位目的(=総合計画での方向性)や市民感覚と照し合わせると適切か?

見直し余地がある

(目的自体適切ではない、対象や意図をより限定・追加・拡充すべきである)

適切である

(気になった点・出された意見等)

ポジティブで前向きな地域社会を市民が作ることも必要。

地域社会の適否に期する。(地域社会として結婚事業をどのように位置づけていくか、掘り下げて分析していかないと成果が出ない。

②公共関与(行政関与)の妥当性

この事務事業の目的(対象と意図)は行政(市)が税金を使って果たす目的か? 民間や受益者ができる事業か?

見直し余地がある

(行政が税金を使って果たす目的ではない、行政が税金を使って果たす目的はあるが、民間や受益者がより関って行政関与を軽減すべきである)

妥当である

(行政が税金を使って果たすべき目的であり、かつ行政の関与は妥当である)

(気になった点・出された意見等)

あきた結婚支援センター入会の年齢制限が無いのが良い。

事務事業評価 ワークシート2 【有効性評価】

班名:第1部会

II. 有効性評価

成果指標と実績

イベント(ツアー)参加者数
H29 63件

カップリング成立数
H29 2組

③成果の向上余地

あるべき水準や目標に達しているか?現在の活動内容で成果の向上が期待できるか?

見直し余地がある(成果実績は十分でない)

妥当である(成果実績は十分な水準である)

(気になった点・出された意見等)

投資と成果について分析する必要がある。

参加者へのアンケートを実施し、内容の評価・分析を行う。

参加しない人へのアンケートも行う。

・イベント参加者69名に対して、カップル成立が4名(2組)
・参加者を増やす努力と費用をかけて分の成果に対する分析が必要

④類似事業との統廃合・連携の可能性

目的を達成するには、この事務事業の他(民間・国県を含む)に方法があるか?

他に手段がある



統廃合ができる

連携ができる

既に統廃合・連携している

統廃合・連携ができない

他に手段がない

(気になった点・出された意見等)

おせっかいおばちゃん課の設置。

・類似事業等はないが、提案として、昔はよく近所のおせっかいおばちゃんが紹介してくれたが、今はなかなかいない。このようなおせっかいおばちゃん課のようなものがあれば面白いのでは。

活動指標と実績

あきた結婚支援センター入会者数
H29 20人

イベント(ツアー)参加者数
H29 63回

カップリング成立数
H29 2組

活動
指標と
実績

あきた結婚支援センター入会者数	H29 20人
イベント(ツアー)参加者数	H29 63回
カップリング成立数	H29 2組

コスト
(かかる費用)

事業費	H29 5,079千円
人件費	H29 3,842千円
合計	H29 8,921千円

Ⅲ. 効率性評価

⑤事業費の削減余地

事業費を削減できないか？(経費の精査、過剰な仕様の適正化、回数削減、住民の協力、外部への委託など)

- 削減余地がある 削減余地がない どちらともいえない

(気になった点・出された意見等)
事業開始からまだ2年目のため、様子を見る必要がありどちらともいえない。

⑥人件費の削減余地

やり方の工夫(業務プロセスの改善など)や臨時職員の活用や外部委託により正規職員の業務時間を削減できないか？

- 削減余地がある 削減余地がない どちらともいえない

(気になった点・出された意見等)
事業開始からまだ2年目のため、様子を見る必要がありどちらともいえない。

Ⅳ. 公平性評価

⑦公平性評価

対象が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担は公平・公正・適切か？

- 見直し余地がある 公平・公正である

(気になった点・出された意見等)
特になし。

事務事業評価 ワークシート4

【評価結果の総括と今後の方向性(市民からの提案)】

(1) 評価結果の総括

(ワークシート1~3での評価結果を踏まえて)

I 目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり
II 有効性	<input type="checkbox"/> 適切	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり
III 効率性	<input type="checkbox"/> 適切	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり
IV 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり

(2) 今後の事業の方向性(複数選択可)

<input type="checkbox"/> 廃止・休止	<input type="checkbox"/> 目的再設定	<input type="checkbox"/> 市の関与軽減
<input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性の改善)		
<input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性の改善)		
<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性の改善)		
<input type="checkbox"/> 現状維持(従来どおりで特に改善をしない)		

(3) この事務事業についての全体所感・市への提案

結婚とは何なのかを今一度考えてみるべき。
おせっかいおばちゃん課をつくる。

・結婚とは様々な要素が絡むものなので、もう一度掘り下げて深く考えて見ることも必要。
・おせっかいおばちゃんのようなサポーターをいろんな地域に増やすことが必要。

(4) 事務事業評価に参画した感想・今後に向けての意見

話し合いの時間が短い。
非常に重要な事業である。

・結婚とは哲学的ですごく重要で難しいテーマであったので、事業の中身に入る前に、「結婚」とは何かの議論に時間を取られすぎてしまい、話し合いの時間が短かった。

(2) ホームページ情報発信事業

事務事業評価 ワークシート1 【目的妥当性評価】

班名:第2部会

対象事務事業名:ホームページ情報発信事業

I. 目的妥当性評価

対象
(誰が、何が)
市民をはじめ、事業者、観光客、移住希望者、ふるさと納税者など北秋田市に関心のある方々

意図
(どうなることで)
市政情報や観光情報など、閲覧者が必要としている情報を容易に得ることができる

結果...

上位目的
(どうなる)
外国人観光客への対応

①対象・意図・上位目的の妥当性

この事務事業の目的(対象と意図)について、上位目的(=総合計画での方向性)や市民感覚と照し合わせると適切か?

見直し余地がある

(目的自体適切ではない、対象や意図をより限定・追加・拡充すべきである)

適切である

(気になった点・出された意見等)

高齢者世代への情報発信は市の広報。

各課による情報発信だが、チェック機能を再確認していただきたい。

②公共関与(行政関与)の妥当性

この事務事業の目的(対象と意図)は行政(市)が税金を使って果たす目的か? 民間や受益者ができる事業か?

見直し余地がある

(行政が税金を使って果たす目的ではない、行政が税金を使って果たす目的ではあるが、民間や受益者がより関って行政関与を軽減すべきである)

妥当である

(行政が税金を使って果たすべき目的であり、かつ行政の関与は妥当である)

(気になった点・出された意見等)

行政が関与して、役立つ情報を発信する必要がある。

事務事業評価 ワークシート2 【有効性評価】

班名:第2部会

II. 有効性評価

成果指標と実績

アクセス数
H29 554,231件

ページビュー数
H29 1,774,211件

③成果の向上余地

あるべき水準や目標に達しているか?現在の活動内容で成果の向上が期待できるか?

見直し余地がある(成果実績は十分でない)

妥当である(成果実績は十分な水準である)

(気になった点・出された意見等)

リニューアル時には、トップページにインパクトのあるものを使用し、多言語・写真も用いて、一覧しやすいホームページにして欲しい。

掲載内容のチェックについて、各部署と総合政策課で調整していただきたい。

・ガイドラインを作って、マニュアル化して各部署でチェックしてもらうなど

④類似事業との統廃合・連携の可能性

目的を達成するには、この事務事業の他(民間・国県を含む)に方法があるか?

他に手段がある



統廃合ができる

連携ができる

既に統廃合・連携している

統廃合・連携ができない

他に手段がない

(気になった点・出された意見等)

マスコミの活用も検討して欲しい。

関連サイトとのリンクを充実させて欲しい。

・連携することで、もっとホームページを活用できるのではないかと。
・マスコミの記事や写真を引用してホームページを充実させるなど

活動指標と実績

新規に作成したページ数(広報係分)
H29 251ページ

活動
指標と
実績

新規に作成したページ数（広報係分）
H29 251ページ

コスト
(かかる費用)

事業費
H29 245千円
人件費
H29 4,378千円
合計
H29 4,623千円

Ⅲ. 効率性評価

⑤事業費の削減余地

事業費を削減できないか？（経費の精査、過剰な仕様の適正化、回数削減、住民の協力、外部への委託など）

削減余地がある 削減余地がない

(気になった点・出された意見等)
特になし。

⑥人件費の削減余地

やり方の工夫（業務プロセスの改善など）や臨時職員の活用や外部委託により正規職員の業務時間を削減できないか？

削減余地がある 削減余地がない

(気になった点・出された意見等)
特になし。

Ⅳ. 公平性評価

⑦公平性評価

対象が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担は公平・公正・適切か？

見直し余地がある 公平・公正である

(気になった点・出された意見等)
特になし。

事務事業評価 ワークシート4

【評価結果の総括と今後の方向性(市民からの提案)】

(1) 評価結果の総括

(ワークシート1～3での評価結果を踏まえて)

I 目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり
II 有効性	<input type="checkbox"/> 適切	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり
III 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり
IV 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり



(2) 今後の事業の方向性(複数選択可)

<input type="checkbox"/> 廃止・休止	<input type="checkbox"/> 目的再設定	<input type="checkbox"/> 市の関与軽減
<input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性の改善)		
<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性の改善)		
<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性の改善)		
<input type="checkbox"/> 現状維持(従来どおりで特に改善をしない)		

(3) この事務事業に関する全体所感・市への提案

ホームページのリニューアル(H31)の際には、インパクトのあるホームページを作成していただきたい。
費用をかけたも、観光情報発信や日常生活に役立つホームページにしていただきたい。

(4) 事務事業評価に参加した感想・今後に向けての意見

魅力を発信する手段として活用して欲しい。
いろんな手段で情報発信をし、全ての世代に情報が届くようにして欲しい。

(3) 北秋田市観光物産協会補助金事業

事務事業評価 ワークシート1 【目的妥当性評価】

班名: 第1部会

対象事務事業名: 北秋田市観光物産協会補助金事業

I. 目的妥当性評価

対象
(誰が、何が)
観光客、市民、観光事業者、物産事業者、観光連盟・DMO等関係団体

意図
(どうなることで)
観光案内を通じた観光客の増観光事業者・関係団体の連携を通じた魅力向上、発信力強化

結果...

上位目的
(どうなる)
日帰り観光から宿泊滞在型観光への移行による経済効果
他業種間連携
就労機会の増大

①対象・意図・上位目的の妥当性

この事務事業の目的(対象と意図)について、上位目的(=総合計画での方向性)や市民感覚と照し合わせると適切か?

見直し余地がある

(目的自体適切ではない、対象や意図をより限定・追加・拡充すべきである)

適切である

(気になった点・出された意見等)

地区ごとの偏りがある。
情報発信が不足している。

事業内容が鷹巣地区のイベント中心である。
四季美観に観光案内所がない状況である。

②公共関与(行政関与)の妥当性

この事務事業の目的(対象と意図)は行政(市)が税金を使って果たす目的か? 民間や受益者ができる事業か?

見直し余地がある

(行政が税金を使って果たす目的ではない、行政が税金を使って果たす目的ではあるが、民間や受益者がより関って行政関与を軽減すべきである)

妥当である

(行政が税金を使って果たすべき目的であり、かつ行政の関与は妥当である)

(気になった点・出された意見等)

北秋田市の観光を発信していくために、人材確保や予算を上げるなど検討すべき。

事務事業評価 ワークシート2 【有効性評価】

班名: 第1部会

II. 有効性評価

成果指標と実績
窓口対応件数
H29 4,614件
手荷物預かり件数
H29 115件

活動指標と実績
主催イベント入込数
H29 21,400人
イベント入込数
H29 99,431人
観光案内業務
H29 7,543人

③成果の向上余地

あるべき水準や目標に達しているか? 現在の活動内容で成果の向上が期待できるか?

見直し余地がある(成果実績は十分でない)

妥当である(成果実績は十分な水準である)

(気になった点・出された意見等)

DMO等広域強化、観光案内を通じた観光客増加のためには事業内容の抜本的な見直しが必要。

広域で観光業務を調整する組織のこと。

④類似事業との統廃合・連携の可能性

目的を達成するには、この事務事業の他(民間・国県を含む)に方法があるか?

他に手段がある



統廃合ができる

連携ができる

既に統廃合・連携している

統廃合・連携ができない

他に手段がない

(気になった点・出された意見等)

特になし。

活動
指標と
実績

主催イベント入込数 H29 21,400人
イベント入込数 H29 99,431人
観光案内業務 H29 7,543人

コスト
(かかる費用)

事業費 H29 6,600千円
人件費 H29 11千円
合計 H29 6,611千円

Ⅲ. 効率性評価

⑤事業費の削減余地

事業費を削減できないか？（経費の精査、過剰な仕様の適正化、回数削減、住民の協力、外部への委託など）

削減余地がある 削減余地がない

（気になった点・出された意見等）
むしろ予算をもっと増やすべき。
各地域に観光案内所を増やして欲しい。

⑥人件費の削減余地

やり方の工夫（業務プロセスの改善など）や臨時職員の活用や外部委託により正規職員の業務時間を削減できないか？

削減余地がある 削減余地がない

（気になった点・出された意見等）
北秋田市全体の観光案内の質向上のために、より人手が必要。
人が人を呼び込む。

案内所のスタッフの賃金が安すぎる。
人にお金をかけないと人が集まらない。

Ⅳ. 公平性評価

⑦公平性評価

対象が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担は公平・公正・適切か？

見直し余地がある 公平・公正である

（気になった点・出された意見等）
一部地域への偏り。
市全域への展開が必要。

事務事業評価 ワークシート4

【評価結果の総括と今後の方向性(市民からの提案)】

(1) 評価結果の総括

(ワークシート1～3での評価結果を踏まえて)

I 目的妥当性	<input type="checkbox"/> 適切	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり
II 有効性	<input type="checkbox"/> 適切	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり
III 効率性	<input type="checkbox"/> 適切	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり
IV 公平性	<input type="checkbox"/> 適切	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり

(2) 今後の事業の方向性(複数選択可)

<input type="checkbox"/> 廃止・休止	<input checked="" type="checkbox"/> 目的再設定	<input type="checkbox"/> 市の関与軽減
<input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性の改善)		
<input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性の改善)		
<input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性の改善)		
<input type="checkbox"/> 現状維持(従来どおりで特に改善をしない)		

(3) この事務事業についての全体所感・市への提案

北秋田市全域を見据えた展開で進めて欲しい。
観光案内所などの充実。
DMOなど広域地域との連携の強化。
「観光」という定義をよく定義しなおし、事業内容の見直しを期待したい。
「見える化」の徹底。⇒観光の広報、PRを分かりやすくして欲しい。

(4) 事務事業評価に参画した感想・今後に向けての意見

事業と政策がゴチャゴチャになると分かりづらくなる。
北秋田市の観光政策とこの事業の関連が見えない。
「見えるようにして欲しい」=見える化

- 何を基準にして力を入れていこうとすることが見えない。
- 入れ込み数などのデータが信頼できず客観的な話しかできない。
- 鷹巣地区のイベント対応の残りの時間での観光案内業務という状況。(紅葉情報が毎日更新されていない)
- まとめていく人材とそれをバックアップする体制が必要。
- 案内所が足りない。
- 今年度、体制が変わったので、今年度の活動に期待して来年度再評価することも検討。

(4) 情報伝達体制（防災無線、災害メール）事業

事務事業評価 ワークシート1 【目的妥当性評価】

班名：第2部会

対象事務事業名：情報伝達体制事業

I. 目的妥当性評価

対象
(誰か、何か)

【280MHz 防災ラジオ】
①市民（世帯） ②事業所 等への普及
【北秋田市情報メール】
①市民（個人） ②市内に勤務する者ほかの登録

意図
(どうなることで)

防災ラジオ、情報メールからの情報入手は当然ながら、各自が最も自分に適した入手手段を複数確保し、活用している。

上位目的
(どうなる)

防災、災害情報等を得ることにより、初期災害時等における自助、共助に係る行動を自ら行えるようになること。

結果...

①対象・意図・上位目的の妥当性

この事務事業の目的（対象と意図）について、上位目的（＝総合計画での方向性）や市民感覚と照し合わせると適切か？

見直し余地がある

(目的自体適切ではない、対象や意図をより限定・追加・拡充すべきである)

適切である

(気になった点・出された意見等)

配布世帯90%を目標にしているが、実際は7割程度になっている。残り3割の世帯に対する働きかけをどうするかが検討課題。メールの登録率はまだ低いので、高めていくための広報が必要。

②公共関与(行政関与)の妥当性

この事務事業の目的（対象と意図）は行政（市）が税金を使って果たす目的か？民間や受益者ができる事業か？

見直し余地がある

(行政が税金を使って果たす目的ではない、行政が税金を使って果たす目的ではあるが、民間や受益者がより関って行政関与を軽減すべきである)

妥当である

(行政が税金を使って果たすべき目的であり、かつ行政の関与は妥当である)

(気になった点・出された意見等)

情報伝達こととまらず、住民による自主防災組織の拡充が求められる。その啓蒙が必要。

事務事業評価 ワークシート2 【有効性評価】

班名：第2部会

II. 有効性評価

成果指標と実績

防災に関する講座・研修会等の実施回数 H29 8回

「災害に備えて何かしら準備をしている」市民の割合 H29 49.5%

③成果の向上余地

あるべき水準や目標に達しているか？現在の活動内容で成果の向上が期待できるか？

見直し余地がある(成果実績は十分でない)

妥当である(成果実績は十分な水準である)

(気になった点・出された意見等)

まだ、防災ラジオ・防災情報メールの導入を行っていない層に対して周知を徹底していく。

④類似事業との統廃合・連携の可能性

目的を達成するには、この事務事業の他（民間・国県を含む）に方法があるか？

他に手段がある



統廃合ができる

連携ができる

既に統廃合・連携している

統廃合・連携ができない

他に手段がない

(気になった点・出された意見等)

非常時に河川等にいる人や高齢者などの弱者に対しては、広報車や戸別訪問による周知が必要。

活動指標と実績

280MHz 防災ラジオ（戸別受信機）普及率向上(一般世帯) H29 855台

北秋田市防災情報メール登録者数 H29 2,186人

活動
指標と
実績

280MHz 防災ラジオ (戸別受信機) 普及率向上(一般世帯) H29 855台
北秋田市防災情報メール登録者数 H29 2,186人

コスト
(かかる費用)

事業費
H29 175,632千円
人件費
H29 1,520千円
合計
H29 177,152千円

Ⅲ. 効率性評価

⑤事業費の削減余地

事業費を削減できないか? (経費の精査、過剰な仕様の適正化、回数削減、住民の協力、外部への委託など)

削減余地がある 削減余地がない

(気になった点・出された意見等)
10年後の機械の更新等を検討しておく必要がある。

⑥人件費の削減余地

やり方の工夫(業務プロセスの改善など)や臨時職員の活用や外部委託により正規職員の業務時間を削減できないか?

削減余地がある 削減余地がない

(気になった点・出された意見等)
特になし。

Ⅳ. 公平性評価

⑦公平性評価

対象が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか? 受益者負担は公平・公正・適切か?

見直し余地がある 公平・公正である

(気になった点・出された意見等)
導入していない3割の人への周知方法が必要。

事務事業評価 ワークシート4

【評価結果の総括と今後の方向性(市民からの提案)】

(1) 評価結果の総括

(ワークシート1~3での評価結果を踏まえて)

I 目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり
II 有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり
III 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり
IV 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり

(2) 今後の事業の方向性(複数選択可)

<input type="checkbox"/> 廃止・休止	<input type="checkbox"/> 目的再設定	<input type="checkbox"/> 市の関与軽減
<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性の改善)		
<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性の改善)		
<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性の改善)		
<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持(従来どおりで特に改善をしない)		

(3) この事務事業についての全体所感・市への提案

- 防災ラジオの配布方法について自治会等と連携を図りながらスムーズに進めて欲しい。
- 防災ラジオの単価(18,000円)についてあまり知られていないので理解を広める。
- 電波法改正による防災ラジオへの切り替えについても理解を広める。

- 鷹巣地区以外は行政無線。鷹巣地区は広報車対応。
- 行政無線は平成34年度で終了となる。
- 防災ラジオは1台あたり18,000円、聴覚障害者用は31,000円。
- ラジオの耐用年数は7年(メーカー)で、平成40年頃に入替を検討。
- ラジオでは、一般のお知らせ・断水・イベント情報・緊急情報・災害情報を流す。

(4) 事務事業評価に参画した感想・今後に向けての意見

- 情報伝達体制事業について、広報を使って住民への周知を徹底してもらいたい。

(5) 伊勢堂岱遺跡管理事業 (伊勢堂岱縄文館)

事務事業評価 ワークシート1 【目的妥当性評価】

班名: 第1部会

対象事務事業名: 伊勢堂岱遺跡管理事業(伊勢堂岱縄文館)

I. 目的妥当性評価

対象
(誰か、何が)
市民、来館者

意図
(どうなることで)
来館者が安心して見学できる環境を維持する。
遺跡に対する理解を深める。
来館者を増やす。

上位目的
(どうなる)
世界文化遺産への登録。
価値ある遺跡を見学するために、北秋田市を訪れる人を増やし、市に賑わいを生み出す。
市民が遺跡に誇りを持つ。

結果...

①対象・意図・上位目的の妥当性

この事務事業の目的(対象と意図)について、上位目的(=総合計画での方向性)や市民感覚と照らし合わせると適切か?

- 見直し余地がある
(目的自体適切ではない、対象や意図をより限定・追加・拡充すべきである)
- 適切である

(気になった点・出された意見等)
伊勢堂岱遺跡を市民にもっと周知させて欲しい。
市内観光地と連携して誘客を図ってほしい。

年代に合った効果的な周知方法をして欲しい。
(社会科見学や自治会等)

②公共関与(行政関与)の妥当性

この事務事業の目的(対象と意図)は行政(市)が税金を使って果たす目的か? 民間や受益者ができる事業か?

- 見直し余地がある
(行政が税金を使って果たす目的ではない、行政が税金を使って果たす目的ではあるが、民間や受益者がより関って行政関与を軽減すべきである)
- 妥当である
(行政が税金を使って果たすべき目的であり、かつ行政の関与は妥当である)

(気になった点・出された意見等)
市として、他関連市町村との連携を強化して欲しい。
(北海道・北東北縄文遺跡群加盟の17自治体)

事務事業評価 ワークシート2 【有効性評価】

班名: 第1部会

II. 有効性評価

成果指標と実績

来館者数
H29 6,206人

伊勢堂岱遺跡を見学したことがある市民の割合
H29 29.7%

③成果の向上余地

あるべき水準や目標に達しているか? 現在の活動内容で成果の向上が期待できるか?

- 見直し余地がある(成果実績は十分でない)
- 妥当である(成果実績は十分な水準である)

(気になった点・出された意見等)
伊勢堂岱遺跡を見学したことがある市民の割合(29.7%)を向上させること。
学校などの社会科見学や自治会などへの呼びかけを行うこと。

活動指標と実績

委託費
H29 15,062千円

工事費
H29 2,692千円

ジュニアボランティアガイド参加者
H29 43人

④類似事業との統廃合・連携の可能性

目的を達成するには、この事務事業の他(民間・国県を含む)に方法があるか?

- 他に手段がある
- 他に手段がない
- 統廃合ができる 連携ができる
- 既に統廃合・連携している 統廃合・連携ができない

(気になった点・出された意見等)
構成メンバー(団体)との連携強化を図ること。
北秋田市のみでやるのではなく、連携して行うこと。

活動
指標と
実績

委託費	H29 15,062千円
工事費	H29 2,692千円
ジュニアボランティアガイド 参加者	H29 43人

コスト
(かかる費用)

事業費	H29 23,236千円
人件費	H29 3,283千円
合計	H29 26,519千円

Ⅲ. 効率性評価

⑤事業費の削減余地

事業費を削減できないか？（経費の精査、過剰な仕様の適正化、回数削減、住民の協力、外部への委託など）

削減余地がある 削減余地がない

（気になった点・出された意見等）

まだ世界遺産登録という目標を果たしていないので、むしろ予算をもっと計上していくべき。

⑥人件費の削減余地

やり方の工夫（業務プロセスの改善など）や臨時職員の活用や外部委託により正規職員の業務時間を削減できないか？

削減余地がある 削減余地がない

（気になった点・出された意見等）

安全と危機管理に充分注意して欲しい。

Ⅳ. 公平性評価

⑦公平性評価

対象が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担は公平・公正・適切か？

見直し余地がある 公平・公正である

（気になった点・出された意見等）

特になし。

事務事業評価 ワークシート4

【評価結果の総括と今後の方向性(市民からの提案)】

(1) 評価結果の総括

(ワークシート1～3での評価結果を踏まえて)

I 目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり
II 有効性	<input type="checkbox"/> 適切	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり
III 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり
IV 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり

(2) 今後の事業の方向性(複数選択可)

<input type="checkbox"/> 廃止・休止	<input type="checkbox"/> 目的再設定	<input type="checkbox"/> 市の関与軽減
<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性の改善)		
<input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性の改善)		
<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性の改善)		
<input type="checkbox"/> 現状維持(従来どおりで特に改善をしない)		

(3) この事務事業に関する全体所感・市への提案

北海道・北東北縄文遺跡群17地域との連携強化を図ること。
北秋田市内の観光施設等との結びつきを図ること。
地域の人が目にするところに、広くポスターやチラシなどを配布して欲しい。
遺跡敷地にある橋脚の見栄えが悪いので緑化するなどの対応をして欲しい。
体験型などを含む冬季間のイベントを企画して欲しい。
危機対応として、緊急時対応マニュアルを整備すること。

(4) 事務事業評価に参画した感想・今後に向けての意見

世界遺産登録に向けて、さらなる準備と機運を盛り上げること。
市民の意欲を向上させるようなPRをして欲しい。
世界遺産登録という壮大な目標をみんなで一緒に応援していこう。

(6) 児童館活動事業

事務事業評価 ワークシート1 【目的妥当性評価】

班名:第2部会

対象事務事業名:児童館活動事業

I. 目的妥当性評価

対象
(誰か、何か)

幼児、小学生、中学生、高校生、大人

意図
(どうなることで)

経験・体験をとおして、活力や体力を養い協調性、挑戦意欲を高め満足感が得られるようになる。

上位目的
(どうなる)

結果...

障害の有無にかかわらず子ども同士がお互いに協力できる能力を身につける。

①対象・意図・上位目的の妥当性

この事務事業の目的(対象と意図)について、上位目的(=総合計画での方向性)や市民感覚と照し合わせると適切か?

見直し余地がある

(目的自体適切ではない、対象や意図をより限定・追加・拡充すべきである)

適切である

(気になった点・出された意見等)

特になし。

②公共関与(行政関与)の妥当性

この事務事業の目的(対象と意図)は行政(市)が税金を使って果たす目的か? 民間や受益者ができる事業か?

見直し余地がある

(行政が税金を使って果たす目的ではない、行政が税金を使って果たす目的ではあるが、民間や受益者がより関って行政関与を軽減すべきである)

妥当である

(行政が税金を使って果たすべき目的であり、かつ行政の関与は妥当である)

(気になった点・出された意見等)

児童館(補助金がない)と放課後児童クラブ(補助金がある)の違い。

事務事業評価 ワークシート2 【有効性評価】

班名:第2部会

II. 有効性評価

成果指標と実績

行事参加人数
H29 9,773人

活動指標と実績

児童利用人数
H29 26,872人

会館利用人数(町内会等)
H29 7,382人

③成果の向上余地

あるべき水準や目標に達しているか?現在の活動内容で成果の向上が期待できるか?

見直し余地がある(成果実績は十分でない)

妥当である(成果実績は十分な水準である)

(気になった点・出された意見等)

西児童館の方向性を検討すること。

④類似事業との統廃合・連携の可能性

目的を達成するには、この事務事業の他(民間・国県を含む)に方法があるか?

他に手段がある



統廃合ができる

連携ができる

既に統廃合・連携している

統廃合・連携ができない

他に手段がない

(気になった点・出された意見等)

児童館(福祉課)と児童クラブ(教委生涯学習課)の統廃合ができないか検討すること。

(事業の統廃合などで、子どもの行き先が無くならないようにすること。)

活動
指標と
実績

児童利用人数	H29 26,872人
会館利用人数（町内会等）	H29 7,382人

コスト
(かかる費用)

事業費	H29 25,903千円
人件費	H29 456千円
合計	H29 26,359千円

Ⅲ. 効率性評価

⑤事業費の削減余地

事業費を削減できないか？（経費の精査、過剰な仕様の適正化、回数削減、住民の協力、外部への委託など）

- 削減余地がある 削減余地がない

（気になった点・出された意見等）
特になし。

⑥人件費の削減余地

やり方の工夫（業務プロセスの改善など）や臨時職員の活用や外部委託により正規職員の業務時間を削減できないか？

- 削減余地がある 削減余地がない

（気になった点・出された意見等）
特になし。

Ⅳ. 公平性評価

⑦公平性評価

対象が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担は公平・公正・適切か？

- 見直し余地がある 公平・公正である

（気になった点・出された意見等）
横断的な組織連携。教委や自治会等との連携を図ること。

【評価結果の総括と今後の方向性(市民からの提案)】

(1) 評価結果の総括

(ワークシート1～3での評価結果を踏まえて)

I 目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり
II 有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり
III 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり
IV 公平性	<input type="checkbox"/> 適切	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり

(2) 今後の事業の方向性(複数選択可)

<input type="checkbox"/> 廃止・休止	<input type="checkbox"/> 目的再設定	<input checked="" type="checkbox"/> 市の関与軽減
<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性の改善)		
<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性の改善)		
<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性の改善)		
<input type="checkbox"/> 現状維持(従来どおりで特に改善をしない)		

(3) この事務事業についての全体所感・市への提案

児童館と児童クラブの両事業が合体できないか検討を提案します。
(同じ子育てで色分けをせずに連携して一体化すること。)
少子化、学校の統合に適應して事業を進めてもらいたい。
児童館の改築や統合を検討する場合は、地域住民を含めた検討委員会などを作って議論に加えてもらいたい。
子どもを守る意識を高めるためのガイドラインが必要ではないか。

(4) 事務事業評価に参画した感想・今後に向けての意見

児童館事業と放課後児童クラブの相違について理解できました。

資料2 行政評価委員会からの意見や提言に対する回答（平成29年度）

(1) 代替タクシー運行事業

	評価結果	目的妥当性	有効性	効率性	公平性
		適切	見直しの余地あり	見直しの余地あり	適切
行政評価委員会	意見・提案等の内容	<p>ア. 利用しやすい仕組みづくり</p> <p>①今後高齢化やそれに伴う運転免許返納により本事業に対する需要はますます増えることから、より利用しやすい仕組みづくりを検討すべき。</p> <p>②有効性を高めるためにも、市民へのアンケート等により乗降場所や時間、回数や路線の検討をすべき。</p> <p>③自治会や婦人会等を対象としたワークショップも検討していただきたい。</p> <p>イ. 「マイタウンバス事業」との連携</p> <p>①類似事業である「マイタウンバス事業」との連携及び統廃合を踏まえて、事業のあり方を検討すべき。</p>			
担当課	意見・提言に対する担当課の回答	<p>ア. 利用しやすい仕組みづくり</p> <p>①「代替タクシー」は廃止となったバス路線に替わり自治会が運営する路線に対し、助成する事業であるため、自治会の自主性を尊重し、現在のスタイルとなったものであり、仕組みの変更については自治会と協議により有効な方法があるか研究したい。</p> <p>②及び③自治会からの運行時刻、回数や団体利用などの要望等がある場合は、適宜、検討及び変更できる体制となっています。</p> <p>イ. 「マイタウンバス事業」との連携</p> <p>①「代替タクシー」と「マイタウンバス」ではそもそも事業の成り立ちの違いがあり、「代替タクシー」は廃止となったバス路線の代替手段として自治会が運営しており、「マイタウンバス」は公共交通機関のない地区に対し、市主導で運行しています。現時点では、自治会による自主的な運営を確保するため事業統合は難しいと考えておりますが、状況を見極めながら対応して行きたい。</p>			

(2) 秋田内陸線利用高校生定期券補助金

	評価結果	目的妥当性	有効性	効率性	公平性
		適切	適切	適切	適切
行政評価委員会	意見・提案等の内容	<p>ア. 事業の継続実施について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過疎対策事業債が充当され、市の負担がほとんどないことから、事業継続を行うこと。 <p>イ. 沿線人口増加対策について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本事業の実施とともに、内陸線存続の対策及び内陸線沿線住民の利用促進対策を行い、人口増加対策を図ること。 			
担当課	意見・提言に対する担当課の回答	<p>ア. 事業の継続実施について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業を継続して実施します。 <p>イ. 沿線人口増加対策について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本事業の実施により、保護者の経済的な負担軽減を行うことにより、内陸線沿線住民の利用促進を促し、内陸線存続と人口増加を図ります。 			

(3) 市民提案型まちづくり補助事業

	評価結果	目的妥当性	有効性	効率性	公平性
		適切	見直しの余地あり	見直しの余地あり	見直しの余地あり
行政評価委員会	意見・提案等の内容	<p>ア. 事業期間の見直しについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期間が最長3ヵ年であるのが気になる。補助期間終了とともに事業が終了となってしまう事例もあることから、期間の見直しについては検討の余地がある。 ・補助期間終了時には行政の連携のもとで、他の補助制度を紹介すべきである <p>イ. 応募団体の増について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業費の上限を50万円にしてより多くの団体が事業を利用できるようにすべきである。 ・事業の周知活動に努めるとともに中身のある審査を行うことで、多くの市民が参加できるように方向付けし、応募団体の増につなげること。 ・どの団体でも気軽に応募できるように、老人クラブや自治会、婦人会などの団体に説明を行うなどの見直しをすべきである。 ・今後伸びていく要素を持っているかを見極めた審査を行うとともに、事業開始後は事業が継続できるように専門家等による指導を行うこと。 			
担当課	意見・提言に対する担当課の回答	<p>ア. 事業期間の見直しについて</p> <p>本事業の趣旨は、主として地域課題解決のために地域住民が自ら行う新規事業の立ち上げに関して、その費用を補助するものであり、1事業につき連続3回までとしております。補助期間終了後も団体が独立して運営することを前提としており、計画性や資金面などを審査基準の重要項目としております。本事業の趣旨から現状の期間は妥当であると考えます。</p> <p>他の補助制度については、元気なふるさと秋田づくり活動支援事業、北秋田市中心市街地賑わい再生支援事業を紹介しております。</p> <p>イ. 応募団体の増について</p> <p>平成30年度から上限を50万円としております。</p> <p>市のホームページで紹介しているほか、施設へ募集要項を配布し周知しております。また、定期的に地元の新聞社に事業の募集について掲載いただいております。</p> <p>審査については、書面で行う予備審査とヒアリング形式による本審査の2段階により公平な審査に努めております。</p> <p>応募団体については、NPO法人や自治会組織などの市民団体を対象としておりますので、老人クラブや自治会、婦人会なども対象となります。個々の団体への説明会は開催しておりませんが、要請があれば柔軟に対応したいと考えます。</p> <p>補助期間終了後も継続して開催できるよう、事業内容や予算規模などについて、ヒアリング審査時に団体に提言しております。事業継続のための専門家等による指導については、事業の趣旨を住民自らが地域のことを考え、地域課題の解決や地域振興に取り組む活動を支援することとしていることから本事業にはなじまないと考えます。</p>			

(4) げんきワールドの管理運営事業

	評価結果	目的妥当性	有効性	効率性	公平性
		適切	適切	見直しの余地あり	適切
行政評価委員会	意見・提案等の内容	<p>ア. 施設管理について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民ふれあいプラザなども整備されていることから、施設の目的妥当性については慎重な検討をすべきである。 ・管理運営についてのチェックをしていなかったようなので、事業の中間時点でのチェック機能を果たすべきである。 <p>イ. 施設の効率的な運用について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施している事業は、様々な担当に分かれているので、統合や連携を図るとともに、一部の人に利用が偏っている懸念があるので、周知の工夫を図ること。 ・関連事業を行っている施設について、統廃合や効率的運用を図るべきである。 			
担当課	意見・提言に対する担当課の回答	<p>ア. 施設管理について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成31年度で土地建物賃貸借契約が切れることから、健康福祉部内の介護予防事業担当者で、現在の施設の目的妥当性や代替施設等について検討していく。 <p>イ. 施設の効率的な運用について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、各部署でそれぞれ実施している介護予防事業を、市広報の一面にまとめて掲載し分かりやすく紹介をした。また、年度初めの講座開始前に、市の介護予防パンフレットを作成し、自治会に全戸回覧を依頼し、広く市民への周知を図った。 			

(5) 市民バス管理事業

	評価結果	目的妥当性	有効性	効率性	公平性
		見直しの余地あり	見直しの余地あり	見直しの余地あり	見直しの余地あり
行政評価委員会	意見・提案等の内容	<p>ア. 活用内容の検討について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事での利用が多いので、市民が活用する際に支障が出ないように、学校行事等による活用内容の整理などの検討をすること。 ・民間バスを借り上げする場合の事業費と利便性の比較など、新車購入の際には民間バスの利用を含めた検討をすべきである。 ・運転手の拘束時間が長く、副業ができない状況であることから、処遇改善や健康管理及び運行前の点検を十分に行うこと。 			
担当課	意見・提言に対する担当課の回答	<p>ア. 活用内容の検討について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事での利用が多いので、市民が活用する際に支障が出ないように、学校行事等による活用内容の整理などの検討をすること。 →学校行事における活用については、スクールバスを有効に活用できないか検討していきたい。 ・民間バスを借り上げする場合の事業費と利便性の比較など、新車購入の際には民間バスの利用を含めた検討をすべきである。 →検討した結果、今年度市民バスを更新することとしており、購入予定のバスは、実際に利用する人数等を勘案し、大型バスではなく、29人乗りマイクロバスとしてコストダウンを図っている。 ・運転手の拘束時間が長く、副業ができない状況であることから、処遇改善や健康管理及び運行前の点検を十分に行うこと。 →現状では運転業務を個人に委託しているが、今後業務の形態について検討していきたい。また、運行前の体調確認を実施したい。 			

(6) 浜辺の歌音楽館管理運営事業

	評価結果	目的妥当性	有効性	効率性	公平性
		適切	見直しの余地あり	適切	適切
行政評価委員会	意見・提案等の内容	<p>ア. 利活用について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PR不足のため、周遊マップ（墓地、生誕の地など）などを作成すること ・市内の小中学校や高校による見学実習や国立市・藤沢市との連携を強化すべきである。 ・成田為三氏は全国を代表する有名人であることから、関係団体との交流を深め、利用拡大を図るべきである。 <p>イ. その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建物等のメンテナンスを定期的実施し、管理費を適正に運営すること ・事業として運営するのではなく、市の施策（財産）として非営利的な施設として保存活用すべきである。 			
担当課	意見・提言に対する担当課の回答	<p>ア. 利活用について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度のリーフレットの改訂に合わせ、成田為三縁の地や関連事項などを掲載したマップを作成し、情報発信、PRしてまいります。 ・市内の小・中学校や高校による見学実習については、ふるさと学習や音楽学習での利用を推奨するため、呼びかけをしております。成田為三を介した国立市・藤沢市との連携については、両市へポスター・リーフレットを送付し成田為三と浜辺の歌が北秋田市と結びつくことをPRするなど事業を展開してまいります。 ・これまで繋がってきたご縁を大切に、引き続き関連団体と交流し、発表の場の提供で利用拡大を図ってまいります。また、地域の人達が成田為三作品に多く触れ、気軽に立ち寄れる音楽館となるよう運営してまいります。 <p>イ. その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建物等のメンテナンスについては、計画的に実施するため、必要な予算の確保と適正な管理運営に努めてまいります。 ・成田為三とその作品の継承のため、音楽博物館として適切な維持管理に努め、市民共有の財産として積極的な活用を図ってまいります。 			

(7) 放課後児童健全育成事業

	評価結果	目的妥当性	有効性	効率性	公平性
		適切	見直しの余地あり	見直しの余地あり	適切
行政評価委員会	意見・提案等の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・指導員の処遇改善及び資質向上を図ること。 ・事故報告（記録・ヒヤリハット含む）のマニュアル化を図ること。 ・施設の中だけでなく、外で子どもが遊ぶ環境の確保がされるようにすること。 ・支援学級や支援学校の子どもたちの放課後の受入体制の整備について、障害児向けサービスとの関係を整理して検討すること。 ・子どもに関する事業を担う「子ども課」をぜひ設置すること。 ・働きやすい環境づくりのため、本事業の継続とさらなる充実を図ること。 			
担当課	意見・提言に対する担当課の回答	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「指導員の処遇改善及び資質向上を図ること」について 労働賃金の値上げ等に取り組むと共に、県で実施する放課後児童支援員の研修に参加させる等、改善を心掛けている。しかし、労働時間（19:00 までの勤務）の関係のため、家庭を支える女性にとっては働きづらい時間帯であるため、常に人員不足という状況である。 2. 「事故報告（記録・ヒヤリハット含む）のマニュアル化を図ること」について 事故報告書の提出の徹底を図っているが、書き方のマニュアル化までは至っていないため、記載例を示す等、速やかな報告体制の整備に努めたい。 3. 「施設の中だけでなく、外で子どもが遊ぶ環境の確保がされるようにすること」について 可能な限り、外遊びも取り入れて実施しているが、施設の立地条件・職員の配置状況等もあり、一律同様な対応は困難な状況である。 4. 「支援学級や支援学校の子どもたちの放課後の受入体制の整備について、障害児向けサービスとの関係を整理して検討すること」について 支援を必要とする児童の受入れは現状で可能な限り対応しているが、支援に専門的な知識を必要とする児童や、対象児童以外の児童へのケアが必要であるなど、児童クラブで担える質と量に限界があるため、放課後デイや日中一時支援等のサービス提供業者との調整を今後も進めていきたい。 5. 「子どもに関する事業を担う「子ども課」をぜひ設置すること」について 当課においても「子ども課」の必要性について認識しており、平成 29 年度職員提案制度にて課として提案しているところであり、今後も関係課と調整を図りたい。 6. 「働きやすい環境づくりのため、本事業の継続とさらなる充実を図ること」について 今後行われる学校統合に合わせ、児童が安全な放課後を過ごせるよう適時児童クラブ等の整備に努めると共に、放課後児童支援員の確保に努めたい。 			

(8) 都市公園等維持管理事業

	評価結果	目的妥当性	有効性	効率性	公平性
		適切	適切	適切	適切
行政評価委員会	意見・提案等の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・市民が利用しやすい管理・運営を図ること。 ・公園の管理者を明確にすること。 ・市民の健康増進等に資する利用の頻度を高めるべきである。 ・利用向上のためのPRを図ること。 ・維持管理等において地域住民の協力を仰ぎながら事業費削減の検討をすべきである。 ・市民生活の維持向上を図るよう環境整備に努めること。 ・魅せたい公園づくりに取り組むこと。 			
担当課	意見・提言に対する担当課の回答	<ul style="list-style-type: none"> ・市民が利用しやすい管理・運営を図ること。 →市民が安全で安心して利用できる公園を目指して、今後も草刈り、桜の根上りによる園路の補修工事、老朽化した施設の修繕・改修を行ってまいります。 ・公園の管理者を明確にすること。 →所管している都市公園等について、市民にわかりやすい表示に努めてまいります。 ・市民の健康増進等に資する利用の頻度を高めるべきである。 →市民が安全で安心して利用できるよう公園の維持管理に努めており、個人のみならず各種大会やレクリエーション活動に多数の利用をいただいております。健康増進等の利用頻度が高まるよう、活用について関係部署と協議してまいります。 ・利用向上のためのPRを図ること。 →利用者の向上に向け、広報、ホームページ等を活用したPRを検討してまいります。 ・維持管理等において地域住民の協力を仰ぎながら事業費削減の検討をすべきである。 →小規模公園については地域による管理を、大規模公園については専門業者による一括管理を行うことによって、事業費を削減できるよう検討を進めてまいります。 ・市民生活の維持向上を図るよう環境整備に努めること。 →市民の癒しと憩いの場として安全・快適に利用できるよう、整備を進めてまいります。 ・魅せたい公園づくりに取り組むこと →市の代表的な公園である中央公園については、景観向上対策として桜等の樹木の剪定・大堤の葦等の水草除去、環境整備として大堤淵の法面の雑木処理等を実施しており、その他の公園についても環境整備に努めており、市民に親しまれる公園づくりを図ってまいります。 			